

合意形成を目指す話し合い会話における 意見調整シーケンスの日越対照研究

—— 共同的な発話の構築に注目して ——

A Contrastive Study of Opinion Adjustment Sequences in Japanese and Vietnamese Concensus-Building Discussions: Focusing on Collaborative Utterance Construction

チャン ティ バオガン*

TRAN Thi Bao Ngan

(要旨)

本稿では、合意形成を目指す話し合いにおける相互行為の実態を明らかにするために、日本語とベトナム語の意見調整シーケンスにおける発話の構築の仕方に着目し、会話分析を行った。意見調整シーケンスとは、「話者が相手の意見を一部受け入れたり、自分の主張を修正したりしながら、合意の成立に向けて意見を調整していくやり取り」を指す。

その結果、両言語において「先取り完了」や「声を合わせた共同産出」といったターンの共同構築(引き取り)が確認された。一方で、日本語では「発話順番内に分散する文」や、聞き手による相槌の頻繁な挿入が見られたのに対し、ベトナム語ではこれらは観察されず、長い順番構成単位(TCU)が継続し、その間に聞き手の相槌などが挿入されることはなかった。

話し手と聞き手は話し合いの当初、意見の不一致から出発しているが、意見調整シーケンスに入ると、合意に向けた認識の共有が進み、立場の一致を示す発話が増加する。そのため、相互に発話を補完し合う共同構築が生じやすくなると考えられる。また、両言語に見られた相違点は、会話スタイルの違いだけでなく、それぞれの言語に固有の統語的特性に起因する可能性があることも示唆された。

【キーワード】 ベトナム語 話し合い 合意形成 意見調整シーケンス 引き取り

1. はじめに

意見が異なる話者同士が最終的に合意を形成する必要がある話し合いにおいて、話者が意見を調整しようとする姿勢を示すことは重要である。もし、この調整がなければ、宮永(2023a)が指摘するように、話者が互いに自分の意見のみを主張し続けるだけで、議論は平行線をたどり、最終的に合意には至らない。しかし、言語教育の観点からみれば、このような調整は、非母語話者にとって母語話者同様に行うことは難しいと予想される。例えば、宮永(2024)は、日本語母語話者と中国語を母語とする日本語学習者(以下、学習者)の話し合い会話において、こうした調整が不十分であり、学習者が唐突に意見を変えたような印象を与える事例があったことを報告

* 山口大学大学院東アジア研究科博士課程 (The Graduate School of East Asian Studies, Yamaguchi University)

している。このことは、中国語を母語とする学習者に限らず、ベトナム語を母語とする学習者にも当てはまると考えられる。

また、日本語とベトナム語の依頼場面の対照研究をしたグエン（2017）は、日本語とベトナム語の言語行動の違いがコミュニケーション上の摩擦の要因になりうると指摘している。そのため、ベトナム語母語話者は母語でどのように意見を調整しているのか、また、日本語母語話者とのような共通点や相違点があるのかということ把握することは、ベトナム人学習者のための日本語コミュニケーション教育の指導法を検討するためには有効であると考えられる。しかし、話し合いという言語行動を日越間で比較した研究は、今のところ存在しない。

さらに、寅丸他（2025）が指摘するように、意見交換を目的とした話し合いと比較して、特に、合意形成を要する話し合いでは、双方向的やりとりを通じて、協働が実現する。このことは、発話の構築のあり方にも影響を及ぼすと考えられる。そこで本研究では、合意形成を目指す話し合い会話における日本語とベトナム語の発話の構築の仕方に注目し、話者がどのように意見を調整するのかということに関してその共通点と相違点を明らかにすることを目的とする。

2. 合意形成を目指す話し合い会話の構造

本章では、先行研究において示されてきた合意形成を目指す話し合い会話の構造を整理した上で、本研究が分析対象とする会話の範囲を示す。

合意形成に関する先行研究として、宮永（2023b:117）は、合意形成を「意見を出し合った上で互いに納得できる結論を見いだすこと」と定義し、久保（2022）もまた、合意形成談話を意見の提示・調整を経て結論に至る協働的な談話と定義している。両者に共通するのは、合意を単なる結果ではなく、相互に納得しうる過程として捉える点である。

このような合意形成を話し合い談話の過程として捉え、それが複数の段階から構成されることを示しているのは、大浜（2000）、大和（2009）、許（2021）、趙（2023）の先行研究である。大浜（2000）とそれを踏襲した許（2021）は、接触場面の合意形成過程を比較した際に「テーマ導入」「提案」「合意/決定」という三段階構成を提示した。また、大和（2009）は、シークエンス¹という観点から意見の一致を目指す会話の展開を捉え、「意見の不一致が表面化するシークエンス」「自分の意見の主張と説得のシークエンス」「意見調整を試みるシークエンス」という三つの段階的な合意形成プロセスを示した。さらに、趙（2023）は、合意形成を目指す話し合いの全体構造を「意見交換談話」と「合意形成談話」に大別し、前者をさらに「意見不一致の表面化」「意見対立」「意見調整」という三つのシークエンスに分類している。これらの研究はいずれも、合意形成を目指す話し合いが一連の相互行為として段階的に構築されることを明らかにしている。

大浜（2000）や許（2021）が示した「テーマ導入/提案」、大和（2009）とそれを踏襲した趙（2023）が示した「意見の不一致が表面化するシークエンス」にあたる初期過程は、会話参加者らが自分の意見を提示することによって自らの立場を明らかにするシークエンスである。本稿ではこの過程を「意見提示シークエンス」と呼ぶこととする。次に、大和（2009）の「自分の意見の主張と説得のシークエンス」と趙（2023）の「意見交換談話」における「意見対立のシークエンス」は、いずれも話者が理由や根拠を挙げながら自分の意見を主張し、それに対して相手が反論や理解な

ど相互に発するという特徴をもつシーケンスである。この過程は、単に対立する意見が提示されるだけでなく、話者同士が相手の発言を受け止めながら理解を深め、意見のやり取りを通じて相互理解が進展する点に特徴がある。このような特徴を踏まえて、この過程を「意見交換シーケンス」を呼ぶこととする。そして、意見が異なることから歩み寄りへと移行し、合意に向けて相互に調整が行われる段階は、趙（2023）のいう「意見調整シーケンス」に相当する。最後に、これらのやり取りを経て合意が成立するが、この段階は趙（2023）のいう「合意形成談話」にあたる。「合意形成」という語は、先行研究ではしばしば、意見交換や調整といった過程全体を含んで用いられることがあるため、本稿では、それまでのシーケンスとは区別するために、この話し合いの最終段階を「合意成立シーケンス」と呼ぶ。

これらをまとめると、図1のようになる。

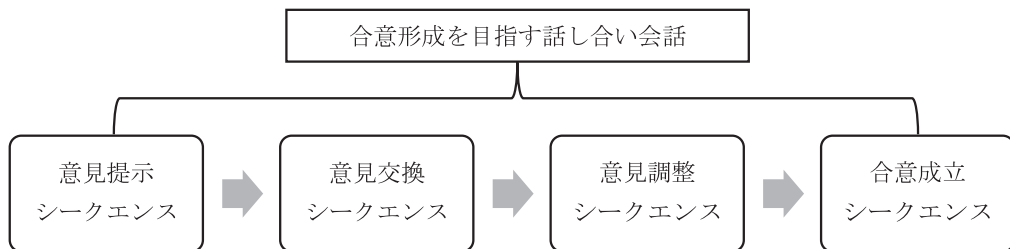


図1 合意形成を目指す話し合い会話の構造（筆者作成）

1章で述べたように、言語教育の観点から見ると、意見調整のシーケンスは、特に、それまでの意見の不一致や対立の状態から、お互いに歩み寄って合意形成へと近づく重要な局面であり、非母語話者にとっては、難しいことが予想される。そこで、本稿では、意見調整シーケンスに焦点を当てる。意見調整シーケンスの特徴については、例えば、大和（2009）において、会話参加者がそれまでの主張を和らげ、結論に向けた準備的なやり取りへと移行する過程として、対立相手の意見に理解を示す発話や、自らの妥協の可能性を提示する発話が観察されたことが報告されている。趙（2023）は、意見調整シーケンスにおいては、ある話者が主導的に不同意を辞めることによって、意見を調整すると述べている。このように、異なる意見が交わされる中で合意に至るためには、意見調整のプロセスが不可欠であることが示唆されている。

以上を踏まえ、本稿では先行研究で重要性が指摘されている意見調整シーケンスに着目する。ここでいう「意見調整シーケンス」とは、大和（2009）および趙（2023）の知見を踏まえて、「話者が相手の意見を部分的に受け入れたり、自らの主張を修正したりしながら意見の調整を図り、合意の成立に向けて進展していくやり取り」とする。したがって、本研究は、意見調整シーケンスにおける発話の構築の仕方に焦点を当て、日本語とベトナム語の合意形成を目指す話し合い会話を対照的に分析することを目指す。

3. 分析データと分析の枠組み

3.1 分析データ

使用する日本語データは、『自由に話せる会話シラバス（現場に役立つ日本語教育研究4）』（依山雄司編、くろしお出版）のために収録された「課題別会話コーパス」のうち、話し合い場面を対象とした日本語母語話者の友人同士ペアによるロールプレイ会話² 10本の音声データ³である。

ロールプレイの場面は、大学のサークルメンバーが旅行の移動手段について話し合い、貸切バス（以下、バス）または電車のいずれかを選択するという設定である。話者はロールカードによって立場が指定されており、ロールカードAは電車を支持する役割、ロールカードBはバスを提案する役割を担う。それぞれの移動手段のメリット・デメリットを考慮しながら話し合いを進め、最終的にどちらか一方に決定することが求められる。

ベトナム語のデータは、筆者が2024年10月にベトナム・ハノイ市内の大学において、日本語版と同様の手順およびロールカード内容に基づいて録音・録画した、大学生の友人同士による10組のペア（計10本）のロールプレイ会話である。ロールプレイには、日本語版の場面設定を可能な限り再現したベトナム語版のロールカードを使用し、ロールカードAは「tàu hỏa（列車⁴）」、ロールカードBは「ô tô（バス）」を支持する立場として指定されている。

データの詳細は表1に示す。なお、話者名の末尾に付したAは電車（または列車）を支持する役割、Bはバスを支持する役割であることを示す。

表1 本稿のデータ概要

日本語データ			ベトナム語データ		
会話番号	話者ペア	調査時間	会話番号	話者ペア	調査時間
DIS-JJ001	J001A-J002B	15分07秒	DIS-VV001	V001A-V002B	6分40秒
DIS-JJ002	J004A-J003B	4分32秒	DIS-VV002	V004A-V003B	10分02秒
DIS-JJ003	J005A-J006B	2分11秒	DIS-VV003	V005A-V006B	7分49秒
DIS-JJ004	J021A-J022B	4分16秒	DIS-VV004	V007A-V008B	6分20秒
DIS-JJ005	J009A-J010B	5分43秒	DIS-VV005	V009A-V010B	8分21秒
DIS-JJ006	J011A-J012B	9分55秒	DIS-VV006	V011A-V012B	5分17秒
DIS-JJ007	J014A-J013B	5分26秒	DIS-VV007	V014A-V013B	6分06秒
DIS-JJ008	J015A-J016B	3分40秒	DIS-VV008	V016A-V015B	9分30秒
DIS-JJ009	J017A-J018B	6分00秒	DIS-VV009	V017A-V018B	5分17秒
DIS-JJ010	J019A-J020B	3分34秒	DIS-VV010	V019A-V020B	4分48秒
合計	20名	59分04秒	合計	20名	68分50秒

3.2 分析の枠組み

本研究では、意見調整シーケンスにおいて、どのように会話参加者らがお互いに意見を調整し合いながら、合意形成に向かっているのかということを明らかにするために、発話の構築の仕方に注目する。そこで、上記の会話データを書き起こすにあたって、音声的な特徴を正確に記述できる会話分析のトランスクリプトの方法を用いた。具体的には、西阪他（2008）をもとにトランスクリプト⁵を作成した。

会話分析の基礎を築いたSacks, Schegloff & Jefferson (1974) は、日常会話における「順番交替システム (Turn-taking System)」の存在を報告している。その要点を高木他 (2016) を参考に整理すると、以下の3点にまとめられる。

- (1) 話し手が発話の順番を組み立てる際の最小の単位を「順番構成単位 (Turn Constructional Unit、以下TCU)」と呼ぶ。TCUは、どのあたりで、どのような形で終わるのかを受け手が予測できるような構造をもっている。TCUは必ずしも文という単位と一致するとは限らず、文や句、節、単語などの文法的単位がTCUとなりうる。
- (2) TCUの最初の完結可能な点 (Possible completion point) は、最初の「順番の移行に適切な場所 (Transition Relevance Place、以下TRP)」、すなわち、現在の話し手以外の者が発話の順番を取って話し始めることができる場所となる。
- (3) TRPにおいて適用される「順番交替の規則群」が存在する。具体的には、1) 現話者が次話者を指名した場合はその者が話す、2) 指名がなければ他の参加者が自己選択によって話し始める、3) 誰も話し始めなければ現話者が継続してもよい、という三つの原則が順に適用される。

本稿では、分析にあたって、この枠組みを用いる。

このSacks et al. (1974) のTCUの概念をさらに発展させ、日本語における共同的な発話の構築の仕方に注目した研究には、串田 (2002)、西阪 (2008)、林 (2017) などの研究がある。

串田 (2002) は、発話が完結しうる地点を迎える前に、もう一人がその発話に統語的に連続するようにデザインされた発話を行う相互行為の現象を分析し、これを「引き取り」と呼んでいる。この「引き取り」は特定のシークエンス環境における位置にあるとされる。具体的な出現環境として、「理解の表示・チェック」「共同追加想起の促し」「現場コメント」「共通経験報告」「共同説明」「追加説明」という6種類が挙げられている。

林 (2017) は、会話におけるターン (TCU) の共同構築現象を対象に、ある話者が開始したターンが完了する前に別の話者が参入し、統語的にそのターンを完了させる現象を分析している。具体的には、「先取り完了」⁶や「声を合わせた共同産出」といった相互行為を取り上げ、これらが次の4つの機能を果たすことを報告している。すなわち、1) 理解を示す、2) 同意・共感を示す、3) 独自の知識を持っていることを示す、4) 共同で説明する、である。

林 (2017) が二人の話者によるターンの「完了」を想定しているのに対し、串田 (2002) は、2つのターンの統語的連続性のみ注目し、必ずしも「完了」するわけではないとしている点で、串田 (2002) の「引き取り」は、林 (2017) の「先取り完了」や「声を合わせた共同産出」よりも広い現象を扱っていることになる。

ベトナム語における共同的な発話の構築に関する研究は、現時点ではグエン (2025) に限られる。グエン (2025) は、順番交替時点において、現話者が発話を完結せずに、後続話者が先行発話を継続して統語的に一文 (命題+モダリティ) を形成する現象を「引き継ぎ」と呼んでおり、ベトナム語でも見られることを報告している。

このように、発話の統語的連続性に注目すると、林 (2017) のいう「ターンの共同構築」は、

串田（2002）のいう「引き取り」に含まれる現象であることが分かる。また、グエンのいう「引き継ぎ」も同様に統語的な連続性に着目した現象であるが、串田（2002）の「引き取り」とは異なり、1) 発話のオーバーラップが生じないこと、2) 文としての完了が想定されていること、というより限定的な現象を扱っている。

本稿では、より広義の概念である串田（2002）の「引き取り」という用語を採用する。具体的には、林（2017）の「先取り完了」および「声を合わせた共同産出」を、「引き取り」の下位類型として位置づけ、分析対象とする。

また、串田（2002）と林（2017）は、隣接する2つのターンの統語的連続性に注目しているが、西阪（2008）は、さらに発展させ、複数のターンが統語的に連続性を持たせながら、「文」として認識可能な単位として構築される現象を「発話順番内に分散する文」としている。その際に、語尾の引き延ばしや「区切り」を表す「さ」や「ね」などの標識、最後の音の強勢や上昇イントネーションなどにより、聞き手の反応が期待されるような場所が与えられるのを指摘し、それを「反応機会場」と呼んでいる。

以上より、本稿では、「引き取り」（具体的には「先取り完了」と「声を合わせた共同産出」）に加え、「発話順番内に分散する文」も分析対象として含め、これらをすべて包括する表現として「共同的な発話の構築」と呼ぶことにする。

4. 意見調整シーケンスの分析

4.1 意見調整シーケンスの発話内容

ここでは、まず発話内容に注目して、話し合いにおいて意見調整シーケンスがどのようなものなのかを、日本語の抜粋1およびベトナム語の抜粋2をもとに前後のシーケンスと比較しながら、具体的に確認する。

抜粋1では、J013BとJ014Aが最初の意見を出し合ってから最終的に合意に至るまでの一連のやりとりが示されているが、ページ数の関係上、中略を含めつつ特徴的な部分を抽出している（以下も同様である）。

抜粋1

- | | | |
|----|-------|----------------------------------|
| 01 | J013B | どっちが良いと思う？ |
| 02 | J014A | ↑え::でもやっぱり電車の方がさ: [ちょっと安く行けるやんか? |
| 03 | J013B | [うん |
| 04 | J013B | ま:それはある. |
| 05 | J014A | うん[やけ(.)>やっぱり電車の方が<良い気がする. |
| 06 | J013B | [うん |
| 07 | J013B | う:ん まあで [も電車は安いし[:(.) 良いけど: |
| 08 | J014A | [うん [うん |
| 09 | J013B | ま:その (1.0) 大学サークルやし:= |
| 10 | J014A | =うん |
| 11 | J013B | 楽しみながら行くのも ま:(.) 一つじゃない?>って考えると< |
| 12 | J014A | うん |
| 13 | J013B | 道中楽しめるのは[:貸し切りバスじゃない? |

意見提示
シーケンス

- 14 J014A [うん
 15 え:でも やっぱさ:10人おるけ:結構:なんか (5.0) ね?
 (中略)
 16 J014A うん. や なんか絶対さ (.) で目的地決めて行くんやったら:
 17 J013B うん.
 18 J014A (0.5)>電車の方が効率良い気がする<
 19 J013B (0.5) 電車か:=
 20 J014A =うん
 21 J013B (2.0) <でも移動中:>
 22 J014A うん
 23 J013B すごい静かって何かもう (.) 嫌じゃね?
 24 J014A う:んま:でもやけ (.) 移動する時↑は、ま: (.) ね?
 25 移動やけ [:
 26 J013B [hhhhもうそこは割り切る [ってこと?
 27 [そうそうそう (.) なんかメリハリが
 28 J014A 大事やる [hhhhhhh
 29 J013B [hhhhhhh
 30 J014A [行ってから] 楽しもうや=
 31 J013B [なるほど]
 32 =なるほど=
 33 J014A =うん=
 34 J013B =それまでは=
 35 J014A =うん=
 36 J013B =いいんや=
 37 J014A =うん:え:↑いや?
 38 J013B 俺は↑ま:[そうやな なんか こういう旅行って[電車よりバスのイメージもあるし[
 39 J014A [うん [うん [うん
 40 J013B バスの方がいいかなと思うけどな.
 41 J014A う:ん そっか でも やっぱさ↑せんえん 浮いたらできること 結構あるやん?
 (中略)
 42 J013B (2.0) あれやない?(1.0) でも疲労はあると思うよ
 43 J014A ん::
 44 J013B まあ寝たいとかもあるやろうしね
 45 [帰りとか
 46 J014A [ん: (1.0) あそっか、帰りのこともあるんか.
 47 J013B (3.0)*バスワンチャンかな*
 48 J013B (3.0).hh hhh
 49 J014A え:でも (2.0) バスやったらもう時間決まっとるよね?
 50 その[帰りの時間とか
 51 J013B [ま:そうやな:ここまでに
 52 (.) ま: 電車の方が [: <その辺は: >] フレキシブル
 53 J014A [ゆとりをもって] 動けそうな気がする<(.) うん
 54 J013B 確かに柔軟やね=
 55 J014A =うん向こうでなんかあったときもさ (1.0) ね (.) バスやったら
 56 ちょっと融通利かん. [けど:
 57 J013B [そうやな=
 58 J014A =電車やったら:
 59 J013B ま:ちょっと調べて [あ:これで帰れるやん[ぐらいは (.) あるね[確かに
 60 J014A [うん [うん [うん
 61 J013B ふ:ん (2.0) *ま:そうやね大学生がそんな騒ぐとは思わんしな 電車で:

意見交換
シーケンス

意見調整
シーケンス

62	J014A	↑[ま:	意見調整 シーケンス	
63	J013B	[10人かでも10人		
64	J014A	ま:でもみんなやったら大丈夫よ[hhhhhhh う[:ん		
65	J013B	[hhhhhhh [まあ確かに=		
66	J014A	=うん (.) その辺はもうTPOをわきまえて		
67	J013B	(2.0) じゃ も電車で行って		
68	J014A	(0.5) うん (.) やけ も:向こうに着いてか↑ら=		
69	J013B	=あ:[そういうことか		
70	J014A	その[浮いた1000円を (.) ちょうど使うっていう方が:		
71	J013B	ま:それもありやね (.) 楽しいかもしれん.		
72	J014A	(1.0) 電車で行くか		合意成立 シーケンス
73	J013B	電車で行くか=		
74	J014A	=うん		
75	J013B	電車で行こうhhh		

まず会話の冒頭では、J013Bが「どっちが良いと思う？」(01行目)と問いかけ、これに対しJ014Aが「電車の方が安く行ける」(02行目)という理由を挙げながら「やっぱ電車の方が良い気がする」(05行目)と自らの意見を述べている。続いて、J013Bも「大学サークルやし、楽しみながら行くのも一つじゃない？」(09、11行目)と理由を述べて、「道中楽しめるのは貸し切りバスじゃない」(13行目)と初めて意見を提示することで自分の立場も明確にしている。すなわち、この場面では両者が初めてそれぞれの意見を提示しており、本稿ではこの部分を意見提示シーケンスと位置づける。

その後、J014Aが「電車の効率」(18行目)の良さを主張する一方、J013Bは「移動中すっごい静かって嫌じゃね？」(23行目)と電車のデメリットを述べ、両者の意見の不一致が見られる。さらに、J014Aが「いや？」(37行目)と尋ねたのに対して、J013Bは「俺はこういう旅行って、電車よりバスのイメージあるし、バスの方がいいかなと思うけどな」(38、40行目)と述べ、同意をしていない。そこで、J014Aは「1000円浮いたらできること結構あるやん？」(41行目)と電車の利点を再提示し、説得を試みている。ここでは互いに根拠や理由を挙げながら主張を展開しており、歩み寄りは見られない。この段階が意見交換シーケンスである。

状況が変わるのは、51行目からである。J014Aの「えーでもバスやったらもう時間決まるとるよね？」(49行目)という確認要求に対して、J013Bも「まあそうやな」(51行目)と応答し、「ま電車の方がその辺はフレキシブル」(52行目)と同意している。J014AもJ013Bの発話に重ねるようにして「ゆとりをもって動けそう」(53行目)と共感を示し、両者は共通の考えを持っていることが分かる。続いて、J014Aが「バスやったら融通利かん」(55-56行目)と述べると、J013Bは「そうやな」(57行目)と同意し、J014Aの「電車やったら」(58行目)にJ013Bが「電車で帰れる」「大学生が騒ぐこともない」(59、61行目)などと応じ、相手の発話を補完する形で電車の利点をさらに強調する。以降も「うん」「確かに」などの同意を表す表現や相槌を交わしながら、両者の意見は徐々に接近していく。特に、J013Bは移動中のマナーや人数についての考え方を共有し、J014A「みんなやったら大丈夫」と応答したことで、合意に向けた調整が進行している様子が確認できる(64-66行目)。その後、2秒の比較的長い沈黙の後、J013Bが「じゃ、もう電車で行って」(67行目)と言ったのを受けてJ014Aはさらに「浮いた1000円を使う」(70行目)という

具体的な活用方法を補足する。それに対し、J013Bは「それもありやね」「楽しいかもしれん」(71行目)と応答し、相手の提案を受け入れて、意見調整の様相が示されている。この一連のやり取りが、意見調整シークエンスだと考えられる。

最後に、J014Aの「電車で行くか」(72行目)という合意の促し発話とそれへの応答を受けて、両者は「電車で行く」という結論に至る(73-75行目)。この局面が合意成立シークエンスであり、調整を経た上で合意が成立したことが確認できる。

このように、抜粋1のやり取りには、意見提示 → 意見交換 → 意見調整 → 合意成立という四つのシークエンスが順に展開していることが分かる。ただし、実際の会話では、必ずしもこのように明確に区切られるとは限らない。しかし、合意形成を目指す話し合い会話においては、それぞれのシークエンスが固有の特徴を備え、話者間のやり取りの中に話の展開を変える契機となるような発話が見られ、そこから意見調整シークエンスに入る。抜粋1では、J013Bの発話(51-52行目)がその契機として機能している。

ベトナム語の会話データにおいても、日本語と同様に四つのシークエンスが確認された。以下では、抜粋2を取り上げ、その具体的な様相を確認する。

抜粋2

01	V014A	>Theo trải nghiệm cá nhân nhá< mình nghĩ đi tàu hỏa sẽ tốt hơn= 自分の経験からするとさ、列車で行ったほうが良いと思う	意見提示 シークエンス	
02		= Bởi vì đi tàu hỏa có nhiều ưu điểm. だって列車にはいろいろなメリットがある。		
03		Nó có nhà vệ sinh và quầy bán đồ ăn thì: cho mọi người sẽ tiện hơn. トイレもあるし、売店もあるから、みんなにとって便利だ。		
04	V013B	Nhưng mà <theo mình thì> đi xe ô tô sẽ tốt hơn. でも、私的にはバスで行くほうが良いと思う。		
05		Tại vì: ↑ đi xe ô tô thì cũng có trạm dừng chân mà.= だって、バスでもサービスエリアがあるし。		
06		= Và mình có thể đi vệ sinh và: đi mua đồ ăn ở trạm dừng chân đó cũng được. トイレにも行けるし、そこで食べ物も買えるからね。 (中略)		
07	V014A	hh Phương tiện công cộng mà. まあ、公共の交通機関だからね。		意見交換 シークエンス
08		À, đúng rồi, nếu là đi tàu thì mình nghĩ là nó sẽ rẻ hơn đấy. あ、そうだ。列車で行くなら、費用は安くなるかも。		
09		Bởi vì mình đi đông mà thuê nhiều xe thì có vẻ là sẽ đắt hơn rất là nhiều. だって、大人数で行くし、バスを何台も借りるのは結構高くてつきそうだな。		
10	V013B	Thì mình thuê một xe thôi, 1台のバスを借りれば良いんだよ。		
11		vì nhóm mình đông mà, nên là chia ra thì cũng đâu có đắt. グループが多いから、割り勘すればそんなに高くならない。		
12		Thuê xe 16 chỗ ấy. 16人乗りのバスを借りれば良いしね		
13	V014A	Ừ ha. Nhóm mình 10 người(.) Cũng đúng. あ、そうだね。私たちのグループは10人だしね。それもそうだね。		
14		Nhưng mà đồ đạc của chúng ta cũng rất là nhiều, でも荷物も結構多い、		
15		đi bằng tàu hỏa thì có thể sẽ cầm được nhiều hơn. 列車だとたくさん持ち込める。		
16	V013B	Vì chúng ta đi có 2 ngày 1 đêm thôi,		

<p>44 V013B Chọn ô tô đi: バスにしようよ。</p> <p>45 V014A (3.0) .h Có vẻ ô tô là lựa chọn tối ưu đấy= バスの方が最適な選択肢っぽいね。</p> <p>46 V013B = Chốt ô tô nhà (.) để mình báo với nhóm. じゃあ、バスで決定ね。グループに報告するよ。</p> <p>47 V014A Vậy thì câu sẽ là người liên lạc với nhà xe nha ↑ じゃあ、バス会社との連絡は君がやってね。</p> <p>48 V013B Ok. オッケー。</p> <p>49 V014A Ok. オッケー。</p>	}	<p>合意成立 シーケンス</p>
---	---	-----------------------

抜粋2では、V014Aが「Theo trải nghiệm cá nhân nhà mình nghĩ đi tàu hỏa sẽ tốt hơn (自分の経験からすると列車のほうがよい)」(01行目)と意見を提示し、これに対してV013Bが「đi xe ô tô sẽ tốt hơn (バスのほうがよい)」(04行目)と応答することで、両者の意見の相違が示され、ここは意見提示シーケンスに相当する。続いて「đi tàu thì sẽ rẻ hơn (列車でいくなら安い)」(08行目)や「đồ đạc rất là nhiều, đi bằng tàu hỏa thì có thể sẽ cầm được nhiều hơn (荷物も結構多いから、列車だとたくさん持ち込める)」(14-15行目)など、互いに根拠や説明を挙げながら意見を述べ合う段階が意見交換シーケンスである。

ところが、それまで列車を支持していたV014Aは、3.0秒という比較的長い2回の沈黙の後、「vậy thì sau đi ô tô thì sẽ được đưa đến tận nơi ha? (バスで行くと、目的地までそのまま連れて行ってくれるんだよね?)」(23行目)や、「Giờ đi các thứ thì sẽ không lo (出発時間とかも気にしなくていい)」(24行目)、「sau khi mình đến nơi thì sẽ có xe đưa thẳng mình về khách sạn ha? (着いたらすぐホテルまで送ってくれるんだよね?)」(25行目)と、既にV013Bが述べたバスの利点について、確認をし始める。ここで、V014Aは反論や不同意をやめて相手の意見を受け入れ、歩み寄りを始めたことが分かる。これ以降のやりとりは、バスで行くことの利点について、二人で確認し合っている。これらのやり取りが、意見調整シーケンスに相当する。最後に、V013Bの「Chọn ô tô đi (バスにしようよ)」(44行目)という決定を促す発話にV014Aが、「Có vẻ ô tô là lựa chọn tối ưu đấy (バスの方が最適な選択肢っぽいね)」(45行目)と同意することで合意が成立している。これが、合意成立シーケンスである。

以上のように、最初に意見を提示し合う意見提示シーケンスや、反論や再反論、根拠の説明などを中心とする意見交換シーケンス、あるいは、合意が形成されお互いに確認し合う合意成立シーケンスとは異なり、意見調整シーケンスでは、反論をやめ、自らの主張の修正や、相手の意見に対する理解や共感を示しながら、両者の歩み寄りが観察される。

4.2 意見調整シーケンスにおける共同的な発話の構築

次に、発話の構築の仕方に注目し日本語母語話者とベトナム語母語話者がどのように意見の調整を行っているのか明らかにするために分析していく。

本節では、共同的な発話の構築に関する分析結果をもとに、両言語の意見調整場面においてそれがどのように現れるのかを捉えるため、典型的なパターンを整理し、図式化して示す。

4.2.1 日本語の事例

抜粋3に示された日本語母語話者同士のやりとりでは、最終的に「バス」が選択されているが、本抜粋はその決定がなされる直前のやりとりの一部である。

なお、抜粋した会話データにおけるグレーの網掛け部分は、先行発話と後続発話が統語的に連続し、文を形成する部分を示す（以下も同様）。

抜粋3

01	J004A	(2.0) え::だったら(.) どうしよ↓う
02		(0.5) どっちの意見(.) がいいかな(.) [電車 かバスかだった↓ら
03	J003B	[うーん
04		(1.5) やっぱバス:(.) のほう↓が (0.8) いいかな [::] 1000円:高く[なっちゃうけど]
05	J004A	[うーん] [高くなるけど] う::ん
06	J003B	そうね10人合わせて1万円で結構↑な=
07	J004A	=そう↑やね [hhhhま: hhhh

ここで注目したいのは、J003BおよびJ004Aによる発話の組み立て方（04-05行目）である。J003Bは「やっぱバスのほうがいいかな」（04行目）と述べ、「1000円高くなっちゃうけど」と理由付けを加えようとする途中で、J004Aが「高くなるけど」（05行目）とほぼ同時に発話し、両者の発話がオーバーラップしている。すなわち、J003Bの発話がTCUとして未完了の時点でJ004Aが発話し始め、J003Bの発話に意味的にも統語的にも連続性を持たせ、発話を完了させている。

この現象は、串田（2002）の「引き取り」および、林（2017）の「声を合わせた共同産出」の一例と捉えることができる。すなわち、一方の話者の発話がTRPに到達する前に相手話者が話し始め、先行発話に重ねる形で統語的に継続・完了させる発話を産出させることである。

そして、抜粋4においては、聞き手によって話者の発話を完了させる現象も観察された。

抜粋4

01	J017A	あ:(6.0) タイムロスのことを考えれば:
02	J018B	うん (6.0) [タイム
03	J017A	[電車でしっかり計画を固めてて:
04	J018B	うん.
05	J017A	一か所ダメとかになって:
06	J018B	うん.
07	J017A	バスの方が融通利くかもって(.) ちょっと思い始めるhhhh
08	J018B	あ:hhhhhhh 確かにね(.) うん(.) :バスの方が
09	J017A	良いかな?
10	J018B	だって:
11	J017A	うん
12	J018B	まあ広島も:そこそこ(.) 都会だけど
13	J017A	うん

当初、電車を支持していたJ017Aは、相手の提案に対する評価を挙げた上で、「バスの方が融通利くかもってちょっと思い始める」と発話し、自身の立場を徐々に変化させつつあることを示している（03、05、07行目）。これに対し、J018Bは「あー」「確かに」といった同意を示す相槌を用い、「バスの方が」（08行目）と続けた。この発話には末尾に音の引き伸ばしが見られ、まだ発話が継続することが予定されていることを示す継続の標識が認められる。そこで、J017Aは「良いかな」（09行目）という発話を開始し、J018Bの未完了のターンを統語的に完了させている。このような現象は、林（2017）が報告する「先取り完了」や、グエン（2025）が報告する「引き継ぎ」に該当する。すなわち、ここではJ017Aが、J018Bの発話をその途中で引き取り、先取りする形で統語的に完結させているのである。

林（2017）によれば、「先取り完了」や「声を合わせた共同産出」は、相手の意見や評価に対する同意や共感を示すという。ここで、林（2017）にならい、抜粋3の04行目のJ003Bの発話（「やっぱバスのほうがいいかな、1000円」）を先行発話Xとし、5行目のJ004Aの発話（「高くなるけど」）を後続発話Yとし、XとYを話者の立場から見た発話の内容に注目し、図式化すると図2のようになる。

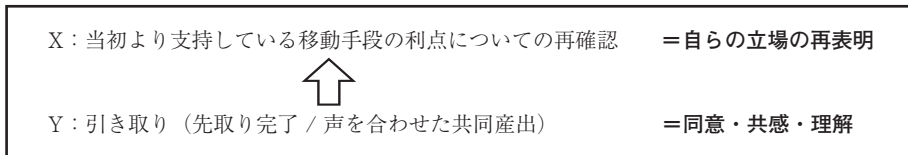


図2 意見調整における引き取りのパターン1（筆者作成）

Xは、元々バスを支持する立場である話者が、その利点を再確認し、自らの立場を改めて表明している発話である。Yを行うのは、元々電車を支持していた話者であるため、相手の発話を引き取ることで、同意や共感、理解を示すことは、相手の立場に歩み寄っていることになる。抜粋4もこの図式に当てはまる。

なお、本データで見られた発話の共同構築には、抜粋5のように別のパターンも見られた。

抜粋5

01	J013B	まあその分席は確保されとるやん? (.) 貸し切りバスは確実に
02	J014A	確かに
03	J013B	(2.0) あれやない?(1.0) でも疲労はあると思うよ
04	J014A	ん:
05	J013B	まあ寝たいとかもあるやろうしね[帰りとか
06	J014A	[ん: (1.0) あそっか、帰りのこともあるんか
07	J013B	(3.0)“バスワンチャンかな”
08	J013B	(3.0).hh hhh
09	J014A	え:でも (2.0) バスやったらもう時間決まっとるよね?
10		その[帰りの時間とか
11	J013B	[ま:そうやな:ここまで
12		(.) ま電車の方が[: <その辺は:>] フレキシブル
13	J014A	[ゆとりをもって] 動けそうな気がする (.) うん
14	J013B	確かに柔軟やね=

ここでは、当初「バス」を支持していたJ013Bが、帰りの疲労時には座席の確保ができるというバスのメリットを述べている（01-06行目）。その後、小声で「バスワンチャンかな」（07行目）と再度主張を示している。これに対してJ014Aは、「でも、バスやったらもう時間決まっとるよね?」（09行目）と発話し、バスのデメリットを提示する。

続いて、J013Bが「まあそうやなあここまでにま電車の方が」（11-12行目）と電車のメリットを述べようとしたところで、TCUの完了点を迎える前にJ014Aが「ゆとりをもって動けそうな気がする」（13行目）と引き取って統語的に発話を完了させていることが見られた。これも串田（2002）の「引き取り」のうち、林（2017）の「先取り完了」に該当し、相手に同意・共感・理解を示す機能を果たしている。

さらに、J013Bは「確かに柔軟やね」（14行目）と述べることから、ここで電車のメリットを受け入れてJ013Bは電車への歩み寄りの姿勢を見せていることが分かる。したがって、このやりとりは、J013BはXを行うことで歩み寄りを示し、J014AはYを行うことで同意・共感・理解を示す機能を果たしているため、図3の「パターン2」に整理することができる。

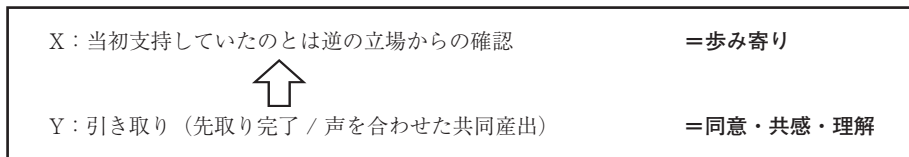


図3 意見調整における引き取りのパターン2（筆者作成）

合意形成を目指す話し合い会話においては、このような共同的な発話の構築を通して、会話参加者が互いに合意形成に向けた準備を進めているといえる。

さらに、意見調整シークエンスにおいては、もう一つの共同構築の現象として、「発話順番内に分散する文」が観察された。抜粋6の発話の組み立て方に注目する。

抜粋6

-
- 01 J004A でもバスだったら、やっぱ、なんか結構サークルのメンバー10人で行くじゃん?
 - 02 J003B うん.
 - 03 → J004A だから (.) バスだっ>たらこう (.) ある程度場所<場所が決まってる:
 - 04 J003B うん.
 - 05 → J004A 仲いい人同士でしゃべることできるから:
 - 06 J003B うん.
 - 07 → J004A それもいいなと思って (.) るんだけど=
 - 08 J003B =う[ん.
 - 09 → J004A [電車の場合だったら、こう、サラリーマンとか
 - 10 J003B うん.
 - 11 → J004A 結構会社通いの↑人が乗る [イメージがあつて=
 - 12 J003B [あ:確かに.
 - 13 → J004A =こう (.) 席が多分バラバラになって
 - 14 J003B あ::
 - 15 → J004A で (.) 着いて (.) みんなで合流みたいな感じが=
 - 16 J003B = [うん.
 - 17 → J004A [あるから (.) みんなでワイワイ楽しんで行くんだったら貸し切りバスがやっぱり

18		いいかなって(.) うん(.) 「J003B 姓」さんの意見に、
19	J003B	うん(.)° そうじゃね°
20	J004A	うん.(5.0) やっぱ(.) 電車の(.) さっきデメリットで挙がったけど(1.0) これはなんか
21		サークルの仲いいメンバーで行くから::うん(.)>電車だったらちょっと行動が難しい
22		かもしれない<え:うん

元々電車を支持していたJ004Aは、「バスだったらこう、ある程度場所が決まって、仲のよい人同士でしゃべることもできるから、それもいいなと思って」(03-07行目)と述べ、バスのメリットについて述べている。さらに「電車の場合だったら、サラリーマンとか会社通いの人が乗るイメージがあって、で着いてみんなで合流する感じがあるから、みんなでワイワイ楽しんで行くんだったら貸し切りバスがやっぱりいいかなって。うん、「J003B姓」さんの意見に」(09-18行目)と発話し、バスの利点を提示した上で最終的に相手の意見に賛同する姿勢を示している。

このJ004Aの発話(03-18行目)は、文法的に従属節(～テ、～カラ、～ケドなど)を用いた未完結な形で、複数のTCUとして発されており、西阪(2008)が述べる「発話順番内に分散する文」に相当する現象である。それぞれのTCUの末尾には、話し手が発話を継続する意志を示す抑揚(上昇調)や音の引き伸ばしが観察され、次の発話への接続が予告されるとともに、J004AがJ003Bに「反応機会場」を与え、その合間にJ003Bによる「あー」「うん」「確かに」などの相槌が差し挟まれ、発話が共同で構築されている。最終的に18行目において、J004Aは「貸し切りバスがやっぱりいい、J003Bさんの意見に」と発話し、自身の立場が変わったことを表明している。

このように、J004Aの発言は、バスのメリットと電車のデメリットをそれぞれ根拠とともに補足することで、相手の意見に納得しつつあることを示しながら歩み寄りの姿勢を示していると解釈できる。また、歩み寄りを示す話者J004Aが発話を展開する途中に「反応機会場」を作り出し、相手のJ003Bが相槌を挿入することで、J004Aの発話権を邪魔せず共同的に構築されている点も注目される。ここでのJ004Aの発話内容は、相手が支持するバスの利便性や費用面に関する理解・共感・同意であり、合意に向けて調整が進行していることを示している。

以上のように、日本語母語話者の話し合い会話においては、「声を合わせた共同産出」と「先取り完了」、「発話順番内に分散する文」といった共同的な発話の構築を通して、相手の同意や共感を得ながら、発話参加者が互いに合意成立に向けた準備を進めていることが分かった。こうした発話の組み立て方は、相手との協調や合意形成を志向する対話の中で、話者が自らの立場を段階的に変化させ、意見を調整するプロセスを示すものである。

4.2.2 ベトナム語の事例

日本語と同様に、ベトナム語会話の意見調整シークエンスにおいても、共同的な発話の構築が見られた。なお、トランスクリプトでは、共同的な発話構築の事例について、1行目にベトナム語原文、2行目に語順に沿った逐語訳と必要に応じて文法要素の品詞の略語、3行目に自然に読める日本語訳を付ける。

抜粋7では、当初「列車」を支持していたV004Aが、徐々に「バス」の支持へと立場を移行していく過程が示され、その中でV003Bとの間に共同構築的な発話が観察される。

抜粋7

-
- 01 V003B Ủ (1.0) thế là mình lại: gấp đôi: giá tiền lên thì nó: lại đắt ngang bằng với thuê ô tô.
うん。それだと費用が倍になって、結局貸切バスと同じくらいの値段になっちゃう。
- 02 V004A (3.0)* Ở thế thì à(2.0) >cái nào cũng có: cái:< hai mặt của nó.
うん、そうしたら、どっちにもメリットとデメリットがある。
- 03 (0.5) Thì đi tàu hỏa cũng:: ok mà đi:: ô tô thì cũng:: khá là thú vị.
列車で行くのも悪くないけど、バスで行くのも楽しそうだ。
- 04 (.) Ủm, mình có thể đi ô tô
うーん、バスで行くなら
- 05 thì mình có thể dừng lại để chụp ảnh ↑ :: có những khung cảnh đẹp đúng không?
途中で景色がきれいな場所で止まって写真を撮れるのがいいよね?
- 06 V003B [Ừ.
うん。
- 07 V004A [À nhớ: hh đợt trước câu lạc bộ mình đi Tam Đảo,
あ、そうだ、この前うちのサークルでタムダオに行って、
- 08 mình cũng đi xe máy xong rồi có cảnh đẹp ý hhhh
私たちもバイクで行って、それから綺麗な景色があつて
- 09 [thì mình cũng:: (0.2) [dừng lại chụp ảnh]
COP 私たち も 止まる 撮る 写真
私たちも止まって写真を撮ったよね
- 10 V003B [Đúng rồi, thì mình có thể [dừng lại chụp ảnh] :: các kiểu.
そうそう COP 私たち 出来る 止まる 撮る 写真 色々
そうだね、写真とか撮りに止まることもできる。
-

抜粋7では、V003Bの「thế là mình lại gấp đôi giá tiền lên thì nó lại đắt ngang bằng với thuê ô tô (それだと費用が倍になって、結局貸切バスと同じくらいの値段になっちゃうよね)」(01行目)という発話を受け、それまで電車を支持していた話者V004Aが、「Thì đi tàu hỏa cũng ok mà đi ô tô thì cũng khá là thú vị (列車で行くのも悪くないけど、バスで行くのも楽しそうだ)」(03行目)と述べて、バスの案を評価し始めている。そして、「mình có thể đi ô tô, thì mình có thể dừng lại để chụp ảnh có những khung cảnh đẹp đúng không? (バスで行くなら、途中で景色がきれいな場所で止まって写真を撮れるのがいいよね?)」(04-05行目)というバスの利点も提示し、バスに気持ちが傾きつつあることを示している。そこで、同じく旅先で写真を撮ったというV003Bとの共通の経験を思い出したV004Aは、「À nhớ đợt trước câu lạc bộ mình đi Tam Đảo, mình cũng đi xe máy xong rồi có cảnh đẹp ý (あ、そうだ、この前うちのサークルでタムダオ(観光地名)に行って、私たちもバイクで行って、それから綺麗な景色があつて)」(07-09行目)とV003Bにその経験を想起させると、V003Bは即座に「Đúng rồi (そうだね)」(10行目)と応じ、結果として両者はほぼ同時に「dừng lại chụp ảnh (写真を撮りに止まる)」と発話を重ねている。つまり、このやり取りでは、当初電車を支持していたV004Aが過去の旅行での共通の経験を想起させながら、バスだと「途中で止まって綺麗な景色の写真が撮れる」という利点を述べながらバス案へと歩み寄っていることが分かる。

ここで、09行目から10行目の発話の構築の仕方に注目すると、10行目で発話のオーバーラップが生じ、聞き手であるV003BがV004Aの言おうとしていうことを予測し、V004AのTCUの未完了のところを割り込み、二人で発話を完成させている。この現象は、「引き取り」の中でも「声を合わせた共同産出」に該当し、先に示した図3のパターン2に位置づけることができる。すなわち、V004Aが相手の立場に歩み寄る姿勢を示す先行発話(X)(「thì mình cũng (私たちも)」)を行い、

それに対してV003Bが後続発話 (Y) 「*dừng lại chụp ảnh các kiểu* (写真とか撮りに止まることもできる)」(10行目) によって引き取りを行い、同意・共感・理解を示している。

次に、抜粋8の01行目から09行目では、V003Bが未完了の発話である副詞「*Trong khi đó* (しかも)」を用いた直後に、V004Aがその続きを先取りして発話し、両者による共同構築が確認される。

抜粋8

01	V003B	[<i>Ừm</i> : [<i>mình đi theo cái tàu hoả đầy (.) mình theo giờ giấc của nó và theo cái hoạt động của nó,</i> うーん、列車に合わせて動かなきゃいけないし、時間も運行に縛られるから、
02		<i>mình không được tự do</i> : 私たちは自由にできない
03		<i>Với lại ở trên tàu hỏa thì nó: kiểu chật chội đông người ấy.</i> それに、列車の中ってなんか狭くて人も多いしさ
04		(0.2) <i>Trong khi đó</i> ↑ = しかも
05	V004A	= <i>Mình không được thoải mái nói chuyện.</i> 私たち 出来ない 気楽に 話す 気楽に話すこともできない。
06	V003B	<i>Đúng rồi, mình không được thoải mái nói chuyện vì sợ làm phiền đến những khách hàng khác</i> そうそう。ほかのお客さんに迷惑かけちゃいそうで、気楽に話せないんだよね。
07		(.) <i>rồi mình đi ô tô ấy thì mình:</i> で、バスで行ったらさ、
08		<i>chỉ có nhóm mình thuê ô tô đầy thôi thì mình <thoải mái nói chuyện với bạn bè></i> 自分たちのグループだけで借りるから、友達と気楽に話せるし
09		<i>mình có thể tổ chức các hoạt động liên hoan: trên ô tô (.) ca hát rồi: à</i> バスの中でパーティーみたいな活動をしたり、歌を歌ったり、
10		<i>ăn uống các kiểu cũng vui ↑ hơn ↑ [là đi tàu hỏa nhì.</i> 食べたりしてさ、列車で行くより楽しいよね。

具体的には、V003Bは「*mình đi theo cái tàu hoả đầy mình theo giờ giấc của nó và theo cái hoạt động của nó* (列車に合わせて動かなきゃいけないし、時間も運行に縛られるから)」、「*mình không được tự do* (私たちは自由にできない)」、「*trên tàu hỏa thì nó kiểu chật chội đông người* (列車の中ってなんか狭くて人も多い)」(01-03行目) といった電車の具体的な不要素に言及し、「*Trong khi đó* (しかも)」(04行目) と言い始めたところで、05行目においてV004Aが「*mình không được thoải mái nói chuyện* (気楽に話すこともできない)」と発話し、V003Bの発話の続きを予測して完了させている。その後、引き取られたV003Bは「*Đúng rồi* (そうそう)」や「*mình không được thoải mái nói chuyện* (気楽に話せないんだよね。)」(06行目) と応答し、相手の先取りが自分の言いたかった内容と一致していることを承認した。この現象は「引き取り」(申田2002) の中でも林 (2017) の「先取り完了」の一事例であり、またグエン (2025) の「引き継ぎ」に相当する。

なお、このやり取りは、前節で示した図2のパターン1に該当する事例である。具体的には、V003Bが01行目から03行目で列車の不便さを挙げ、さらに「*Trong khi đó* (しかも)」(04行目) と言いかけることで、相手の支持する案に対するデメリットを提示しつつ、自らの立場を再表明している (X)。これに対してV004Aは直後に「*mình không được thoải mái nói chuyện* (気楽に話すこともできない)」(05行目) と応答し、V003Bの発話を引き取りながら同意を加えている (Y)。すなわち、元々バスを支持しているV003Bが自らの立場を再表明し (X)、それに対してV004A

が同意・共感・理解を示す発話 (Y) を重ねるといふ、パターン1の構造がここでも観察される。

一方、日本語では、話者が自らの立場を段階的に変化させ歩み寄り際に「発話順番内に分散する文」が特徴的に見られたが、ベトナム語ではそのような発話の構築は見られなかった。代わりに、抜粋9のように、一方の話者が長いTCUを続けて、その間聞き手は言語的な反応を全くしないという例が散見された。

抜粋9

01	V011A	Thế nên sợ mọi người đỏi mọi người không chịu được, みんなお腹が空いて我慢できなくなったら、
02		mà dừng lại thì cũng lâu, 途中で停まらないといけないけど、それも時間かかるし、
03		nên là tao thấy tàu hỏa có vẻ ok hơn. だから、私は列車の方がいいと思う、
04		Mày thì nghĩ thế nào? あなたはどう思う？
05	V012B	Tao thấy, ở với lại là, thêm một cái nữa là nếu mà đi tàu hỏa thì sẽ có chắc là, 私、んー、それからもう一つ、列車だとおそらく、
06		bình thường tao thấy có những cái tàu hỏa sẽ kiểu ghế nó ngồi đỏi nhau í, 通常座席が向かい合わせのタイプがあるよね、
07		thì mọi người có thể chơi board game với nhau, そういう座席なら、みんなでボードゲームの遊びもできる、
08		kiểu nói chuyện với nhau nghe trên tàu luôn. おしゃべりしたりして楽しく過ごせる。
09		Với lại thường tàu nó sẽ đi chậm hơn あと、列車ってバスよりもスピードがゆっくりだし
10		và tao thấy nó cũng sẽ đỡ xóc hơn là so với ô tô. 揺れも少ないから楽だと思う。
11		Ô tô thì thấy nhiều người say hơn là tàu. バスだと酔う人が多いけど、列車ならそんなに酔わないし。
12		Với lại là, ở trên tàu thì chắc là mình sẽ có nhiều thời gian để ngắm cảnh hơn là ô tô さらに、列車ならバスより景色を楽しむ時間もたっぷりあるかもしれない
13		bởi vì ô tô thì tao thì tao bị say í. だってバスだと私は酔うからね。
14	V011A	Ừm, nếu mà tính đến khoản say xe うん、車酔いのことを考えると
15		thì cũng khoảng 5-6 người trong Câu lạc bộ mình sẽ bị say, サークルのメンバーでも5-6人くらいは酔いやすい人がいるし、
16		xong sẽ tốn tiền mua thuốc. 酔い止めの薬を買うお金もかかっちゃう。
17		hhh Trải nghiệm chuyến đi nó sẽ không được vui. 旅行があまり楽しくなくなっちゃう。

このやり取りでは、V011Aが「Thế nên sợ mọi người đỏi mọi người không chịu được, mà dừng lại thì cũng lâu, nên là tao thấy tàu hỏa có vẻ ok hơn (みんなお腹が空いて我慢できなくなったら、途中で停まらないといけないけど、それも時間かかるし、私は列車の方がいいと思う)」と列車の方がいいという主張をしている (01-03行目)。これに対してV012Bは、「ghế ngồi đỏi nhau (向かい合わせに座れる)」(06行目)、「chơi board game (ボードゲームができる)」(07行目)、「đi chậm, đỡ xóc (ゆっくり走るから、揺れが少ない)」(09-10行目)、「có nhiều thời gian để ngắm cảnh (景色が楽しめる)」(12行目)という列車の利点、さらにバスの場合の自分自身の「say ô tô (車酔い)」

(13行目)の問題といった具体的かつ様々な理由を重ねることで、バスを支持する立場から列車を支持する案に賛同を示している。それを受けて、V011Aもバスだと酔いや酔いやすい人が多いため、「tốn tiền mua thuốc (酔い止めの薬代もかかる)」と補足し、バスで移動することのデメリットを改めて指摘している(14-17行目)。

このV012Bの発話は、単に相手の発話を補足するのではなく、列車の利点を複数挙げつつ自らの立場を再構築している点に特徴がある。すなわち、V012Bは自らの経験(「バスでは酔う」など)を根拠として組み込みながら、相手の立場に歩み寄り、合意形成へと進んでいると解釈できる。

この部分の発話の構築の仕方を見ると、各話者のTCUが比較的長く保持されており、日本語会話でしばしば観察される「反応機会場」や聞き手の相槌による介入がほとんど出現していない。日本語であれば、このように相手の立場に歩み寄る場面では、複数のTCUにまたがって、発話を構築しながら、相手の反応を促すのに対して、ベトナム語ではそれが行われていないのが特徴的である。

この点は、先行研究の知見とも整合する。グエン(2020)は、ベトナム語の会話における相槌について、量的に少なく、その頻度は平均して19.5秒に1回と低いこと、そして、その出現位置は、文末や一つの発話が終結したところであることを報告している。このようにベトナム語の会話では、話者がまとまりをもった発話を完結させ、その後に関き手が反応を示すという形で相互行為が組織されていると考えられる。

5. 考察

以上見てきたように、意見調整シーケンスには、発話の構築の観点からみると、日越両言語に共通する特徴と相違点が確認された。両言語において共通して、「先取り完了」および「声を合わせた共同産出」といった「引き取り」が確認された。聞き手が話し手の発話内容を予測・補完しながら発話をともに構築することで、互いに認識を共有し、「同じことを考えている」という協調的な姿勢を示す様子が見られた。また、引き取りには、両言語に共通して2種類のパターン(パターン1、パターン2)が確認された(4.2.1の図2、図3参照)。一方で、日本語では「発話順番内に分散する文」によって聞き手の反応を促しながら発話が共同的に構築されていく現象が見られたのに対し、ベトナム語の事例では、同様の現象は確認されなかった。ベトナム語では、一方の話者が相手に反応機会を与えず長く発話を続け、また聞き手側も明示的な反応を示さないまま会話が進行するという現象が見られた。

これらの共通点および相違点は、合意形成を目指す話し合いにおいて意見を調整することと、どのように関わっているのであろうか。

意見調整シーケンスは、当初は異なる意見を持っていた話者同士が、徐々に合意に近づいていく過程である。この過程において、引き取りが生じることは、両言語に共通して、話者が相手の発話内容を積極的に受け取り、同意・共感・理解などを通して歩み寄りの姿勢を言語的に表明していることを示している。

具体的には、パターン1では、元々バス(または電車/列車)を支持している話者が、その利点を再確認する形で自らの立場を再表明する発話(X)を行い、それに対して相手が同意・共感・

理解を示す引き取り (Y) を行うことで、相手の提案に歩み寄る姿勢を示している。パターン2では、当初支持していたのとは逆の立場からの確認 (X) を行い、それに対して元々その交通手段を支持している話者が同意・共感・理解を示す引き取り (Y) を行うことで、共通の認識が共有され、相手の提案に対して意見を調整する姿勢が示唆される。いずれのパターンにおいても、認識が共有され、それが言語化される際に「先取り完了」や「声を合わせた共同産出」といった現象として表出されるのである。このような現象の生起は、会話参加者が互いに協働的に合意形成を志向していることを示すものである。

また、日本語の話し合いでは、話者が発話の途中で聞き手から頻繁に相槌を受け取りながら、「発話順番内に分散する文」を産出する現象が見られた。話者は発話の途中で聞き手に反応機会を与えることによって、聞き手の反応を巻き込みながら共通の認識を築き上げていくように見られる。このような発話形式は、相手と協調的なやり取りを通して、歩み寄りの姿勢を言語的に表すものであるといえる。

こうした特徴は、日本語学において水谷 (1980, 1993) の一連の研究で言われている「共話」の概念に通じるところがある。水谷 (1980:32) は、「一人が自分の話を最後まで述べた後に、もう一人が改めて自分の考えを述べ始める」のではなく、「二人が互いに補い合い、はげまし合いながら話の流れを作っていく」というような話し方を共話としている。さらに、このような発話の共同構築は、植野 (2017) の言う「融合的談話7」にも相当する。植野 (2017:118) は、「二人が一人で話すかのように一つのストーリーラインを即興的に創出する現象」を「融合的談話」と呼び、これを水谷 (1980) のいう「共話」の究極であると位置づけている。このような会話スタイルは、話し合いの中でも特に意見調整シークエンスにおいて、両者が歩み寄りながら共通の認識を構築していくプロセスの中で効果的に用いられていると言える。

一方、ベトナム語では、そのような融合的な談話は見られず、抜粋9で見られたように、一人が話し、もう一人がそれを聞くというように、話し手と聞き手の役割が独立したやりとりが散見された。このような話者が一人で発話を完結させる談話は、「共話」というよりも「対話8」的構造である。上田 (2008:27) は「英語会話においては、話し手が発話権を持っている間は、聞き手はその発話権を侵害しない程度にじっと聞き、まとまりのある発話の区切りが見えたところで相槌を打つことが、適切な態度だとみなされる」と指摘している。つまり、英語では、まとまった発話を一通り発するまでは、相手に反応の機会を与えず、話者が独立して発話の構築をする傾向があるということである。ベトナム語も、英語と同様に、話者が独立して発話を構築し、順番に意見を交わすスタイルが基本となっているのではないかと考えられる。

さらに、これらの差異は、会話スタイルの違いだけでなく、両言語の統語的特性とも深く関係している可能性がある。林 (2018) によれば、日本語のように語順が比較的自由的な言語では、文構造を漸進的に産出する傾向があり、その過程で聞き手による相槌や挿入発話が生じやすい一方、語順が比較的固定され、要素間の統語的結びつきが強い英語では、発話がひとまとまりとして産出される傾向が強く、「発話順番内に分散する文」のような現象は起こりにくいという。ベトナム語も、松田 (2016) が指摘するように、語順が基本的に固定的であることから、英語と同様に日本語のような現象が起こりにくいと考えられる。

6. おわりに

本研究は、日本語とベトナム語における合意形成を目指す話し合いの中でも、意見調整シーケンスに焦点を当て、会話分析の枠組みで発話の共同構築という現象に注目して分析を行った。その結果、両言語に共通して、相手への同意や共感、理解を示すために「先取り完了」や「声を合わせた共同産出」といった「引き取り」が行われていることが分かった。また、日本語では「発話順番内に分散する文」によって、相手の反応を促しながら、共通の認識を構築していくという現象が見られたのに対し、ベトナム語ではそのような現象は見られず、自身の気持ちが傾きつつあることの理由を連続的に述べる長いTCUをひとまとまりにして発話する傾向が確認された。

この発話の構築の仕方の違いが、ベトナム語を母語とする日本語学習者が意見調整を行う際に会話の相手に違和感を与える一因となると考えられる。例えば、母語話者が与えた「反応機会場」に気づかず、学習者が相手の発話を最後まで黙って聞いて自分の順番を待つということが予想される。あるいは、学習者が長いTCUを分散して発話するのではなく、一方的に続けることで、相手に反応や確認を挟む機会を与えない傾向があるということも予想される。

このような場合、日本語母語話者にとっては、相手が自分の発話に対して理解しているのか、同意しているのか、あるいは異なる立場を取ろうとしているのかが、その場では把握しにくくなる可能性がある。その結果、会話の進行において相互の理解が十分に共有されていないという違和感や、話し合いが円滑に進んでいないという印象を持つことが考えられる。

すなわち、ここで問題となっているのは、学習者の態度や日本語能力そのものが問題なのではなく、母語の特徴を反映した発話の構築の仕方の違いによって、合意形成のための調整が十分に行われえないという点にあるといえる。

また、教育的な観点から見ると、特に意見調整という場面においては、相手の反応を逐次確認しながら発話を構築することが期待される場合が多い。そのため、このような発話構築の差異については、日本語母語話者との相互行為を理解するための前提的な知識として位置づけ、学習者が意識できるよう支援・指導していく必要があると考えられる。

【謝辞】

本研究は、JSPS科研費（基盤研究C: 24K04107）「相互行為能力の習得に関する言語横断的研究—発話の共同構築を中心に—、研究代表者：宮永愛子）の助成を受けています。この場を借りて、深く御礼申し上げます。

また、調査を実施するにあたり、様々な方々からのご協力とご支援を賜りました。皆様に心より感謝申し上げます。

[注]

- ¹ シークエンス (Sequence) とは、連鎖とも訳され、会話分析では、一般的に発話の連なりのことをいう (筒井2012、高木他2016、串田他2017など)。これに従い、本稿でも、シークエンスを談話を構成する発話の連なりとみなす。
- ² 本研究で用いたデータはロールプレイ形式により収集されたものであり、その性質上、自然発話や日常的な話し合いのやり取りを完全に再現しているとは限らない。そのため、本研究では、このような方法論的制約を考慮したうえで、収集されたデータの中から、話者間の相互行為が活発で、より自然なやりとりがみられた会話を選定し、分析対象とした。
- ³ 音声データは、本書の筆者及び本コーパスの作成者の一人である宮永愛子氏より提供を受けた。
- ⁴ ベトナムには、全国を結ぶ列車 (鉄道) と都市部を走る電車 (都市鉄道) がある。列車は1936年にハノイとホーチミンを結ぶ南北鉄道が全通して以来、バスや自家用車と並んで国内の観光や人々の移動を支える重要な交通手段となっている。一方、電車は近年になって整備が進み、ハノイでは2021年11月に初の都市鉄道が開業し、ホーチミンでも建設が進められている。
- ⁵ 本稿の抜粋中で使用するトランスクリプトの記号は、以下のとおりである。

- ⁶ 先取り完了と同様の現象として、日本語学の分野では、堀口 (1998) が、聞き手の予測的行為の一つの型として、話し手が言い終わらないうちに、聞き手が先に予測して言う現象を挙げ、それを「先取り完結」と呼んでいる。
- ⁷ 植野 (2017) は、融合的談話に頻繁に見られる発話現象として、「繰り返し」「先取り」「付け加え」「言い重なり」という4つの「相互ひきこみ発話」を挙げている。
- ⁸ 水谷 (1993) は、「共話」に対して二人の話し手それぞれが自分の発話を完結させてから別の人話し始めるという話し方を「対話」としている。日本語の場合、文末が「です。」「ます。」という完結した形になると述べている。

[参考文献]

上田安希子 (2008) 「日本人はどのように意見を述べるのか：日米の「グループの中で意見を述べる」談話の対照分析から (井出祥子教授記念論文集)」『日本女子大学英米文学研究』43、日本女子大学、pp.21-36

植野貴志子 (2017) 「日本人の聞き手行動：「融合的談話」を事例として」『日本語学』36(4)、明治書院、pp.116-126

大浜るい子 (2000) 「日本人学生と外国人留学生に

トランスクリプトの記号 (西阪他 (2008) をもとに筆者が作成)

[1] 発話の仕方の特徴を示す記号	
□	複数の参加者の発話为重なる部分
=	2つの発話が途切れなく密着している
(m.n)	発話の間の秒数を示す
(.)	短い間 (約0.2秒)
-	発話が不完全なまま途切れていること
° °	声が比較的小さい部分
.h h	呼気音を示す。数が多いほど長い笑いを伴う場合にも用いる
[2]	ベトナム語の品詞を表す略号
CLF	類別詞 日本語の「助数詞」の「本」「個」「枚」など相当する。
COP	コピュラ 主語と述語を結びつけ、両者の関係を示す役割を持つ要素。例：英語の be 動詞、日本語の「だ/である」など。
[3] 転記者から読者への注釈や説明を示す記号	
→	分析において注目する行を示す
ゴシック	文字 先行発話と後続発話が統語的に連続し、文を形成する部分を示す
	語順に沿う単語の逐語和訳

- における合意形成過程の比較』『広島大学日本語教育学科紀要』10、広島大学、pp.65-71
- 申田秀也 (2002) 「統語的単位の開放性と参与の組織化 (1) : 引き取りのシークエンス環境」『大阪教育大学紀要 第Ⅱ部門: 社会科学・生活科学』50(2)、大阪教育大学、pp.37-64
- 申田秀也・平本毅・林誠 (2017) 『会話分析入門』勁草書房
- 久保亜希 (2022) 「アメリカ人日本語学習者の合意形成談話における「かな」の使用」『CAJLE 2022 Proceedings』、カナダ日本語教育振興会 (CAJLE)、pp.118-127
- グエン・ティ・ニューイー (2017) 「日本語とベトナム語の依頼場面における配慮: 待遇コミュニケーションの観点から」大阪大学、博士論文
- グエン・ティ・ハー (2025) 「日本語・ベトナム語の自然会話における「引き継ぎ」に関する研究」、山口大学、博士論文
- グエン・ティ・フォン・ズン (2020) 「ベトナム語の相槌表現—表現形式とその使用の実態を中心とした日本語との対照—」『明海日本語』25、明海大学、pp.47-58
- Sacks, H., Schegloff, E. A. & Jefferson, G. (1974) A Simplest Systematics for the Organization of Turn-taking for Conversation. *Language*, 50(4), Linguistic Society of America, pp.696-735 (西阪仰訳 (2010) 「会話のための順番交替の組織: 最も単純な体系的記述」『会話分析基本論集 順番交替と修復の組織』世界思想社、pp.5-153)
- 高木智世・細田由利・森田笑 (2016) 『会話分析の基礎』ひつじ書房
- 俵山雄司 (編) (2023) 『自由に話せる会話シラバス (現場に役立つ日本語教育研究4)』くろしお出版
- 趙東玲 (2023) 「合意形成を目指す会話における不同意表明の言語・非言語行動の分析: ジェンダーの観点からの日中対照研究」金沢大学、博士論文
- 筒井佐代 (2012) 『雑談の構造分析』くろしお出版
- 寅丸真澄・中井陽子・大場美和子 (2025) 「話し合い」の類型別に見られる協働のためのストラテジー: 意見交換型・課題解決型・課題達成型を中心に」『早稲田日本語教育学』38、早稲田大学、pp.83-92
- 西阪仰 (2008) 「発言順番内において分散する文: 相互行為の焦点としての反応機会場」『社会言語科学』10(2)、社会言語科学会、pp.83-95
- 西阪仰・申田秀也・熊谷智子 (2008) 「相互行為における言語使用: 会話データをういた研究」『社会言語科学』10(2)、社会言語科学会、pp.13-15
- 許明子 (2021) 「接触場面における日本語学習者の合意形成プロセスに関する一考察」『日本語・日本文化論集』28、名古屋大学、pp.1-14
- 林誠 (2017) 「会話におけるターンの共同構築」『日本語学』36(4)、明治書院、pp.128-139
- 林誠 (2018) 「会話分析における対照研究」『社会言語科学』21(1)、社会言語科学会、pp.4-18
- 堀口純子 (1998) 「コミュニケーションにおける聞き手の言語行動」『日本語教育』64、日本語教育学会、pp.13-26
- 松田真希子 (2016) 『ベトナム語母語話者のための日本語教育: ベトナム人の日本語学習における困難点改善のための提案』春風社
- 水谷信子 (1980) 「外国語の修得とコミュニケーション」『言語生活』344、筑摩書房、pp.28-36
- 水谷信子 (1993) 「「共話」から「対話」へ」『日本語学』12(4)、明治書院、pp.4-10
- 宮永愛子 (2023a) 「話し合い」課題のポイント」俵山雄司(編)『自由に話せる会話シラバス(現場に役立つ日本語教育研究4)』くろしお出版、pp.47-70
- 宮永愛子 (2023b) 「合意形成を目指した話し合い会話の日中対照研究: 発話連鎖に注目して」『中国語者のための日本語教育研究』14、中国語話者のための日本語教育研究会、pp.116-132
- 宮永愛子 (2024) 「合意形成における非流暢性: 日本語母語話者と日本語学習者を比較して」定延利之・丸山岳彦・遠藤智子・船橋瑞貴・林良子・モクタリ明子 (編) 『流暢性と非流暢性』ひつじ書房、pp.304-319
- 大和祐子 (2009) 「意見の一致を目指す会話における意見交渉の過程: 意見が異なる者同士の「歩み寄り」の始まりを中心に」『言葉と文化』10、名古屋大学、pp.59-75